

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800015		
法人名	医療法人 さわら病院		
事業所名	グループホームさわら A棟		
所在地	喜多方市塩川町大在家21		
自己評価作成日	令和元年6月17日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の方に四季を感じていただくため、季節に応じた行事(お花見・花火大会・節分など)を取り入れている。
居室担当制を設け入居者様の思いを大切にしながら、生活しやすい環境作りにも努めている。
ご近所の方が収穫した野菜や果物を届けて下さり、秋には観賞用の菊の花を持って来てくださり交流を深めている。ホームの畑では利用者様と種・苗植えから収穫、一緒に調理を行ったり、また、お手伝い一覧表を作成し、利用者様が張りのある日常生活が送れるようサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者一人ひとりの生活歴を詳しく把握し、職員間で話し合いながら利用者の持っている能力を活かし、下準備・盛り付け等、食事関連の作業の中で役割づくりがされている。また、事業所行事等で日舞を舞い抹茶をたて、日常的には縫物・貼り絵等、出来る事を役割として担ってもらい、その人らしく生活できるよう支援している。
2. 運営母体が医療法人であり、常時連携体制が確立しており、緊急時の対応等適切な医療支援があるため、利用者及び家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

A棟自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常時、目につくところに掲示、意識づけし理念を共有し実践している。	一昨年見直した理念はスタッフルームやトイレ等に掲示してあり、毎日確認している。また、職員会議等の際に理念の振り返りを行い、職員間で共有している。利用者が笑顔で安心した生活を送れるよう支援しており、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を行い、民生委員等とのつながりを持ち情報を共有している。年1回地域の会議に参加し事業所の取り組みをお伝え、地域との交流を図っている。	町内会に加入し、総会では事業所を紹介しており、事業所行事(花火大会・芋煮会・認知症カフェ等)には地域住民等の参加がある。また、中学生のサマーボランティア・奉仕活動等を受け入れ双方向で交流をしていたが、昨年コロナ禍にあり、交流が途切れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを行いながら相談窓口となっている。また、ボランティアの方や地域の方々と交流を持ち知っていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月1回開催している。会議のメンバーと話し合い、改善課題がある時はアドバイスをいただきながら改善に向け、職員間でも話し合い取り組んでいる。	運営推進会議は定期的開催し、事業所の現況・活動・事故・ヒヤリハット・評価結果等の報告をし、会議の際に避難訓練の実施もしていたが、昨年コロナ禍で書面開催となっている。誤薬の報告に対して、対応策を提案いただき、改善につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と常時連絡を取り合い協力関係を持つよう取り組んでいる。	行政職員が運営推進会議へ参加があり、行政主催のグループホーム連絡協議会に出席し情報交換をしている。また、市の担当者へは介護保険の更新手続きや事故・外部評価結果報告をしている。その際、事業所の運営状況の報告や市からの情報提供等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の自己チェックを行い、不適切なケアが行われないよう意識づけをしている。研修会にも積極的に参加している。	身体拘束等適正化の指針を作成し、毎月事故防止委員会を開催し、職員に周知徹底している。また、研修会を開催したり、職員会議等で疑問点を話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。職員の見守りに対応で玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様研修会への参加、毎月の自己チェックを行い意識づけをしている。虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し必要時は市役所に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に契約内容と重要事項の説明を十分に行っている。説明後は、利用にあたり不安や疑問がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、担当者会議、ケアプラン説明時に時間を設け要望や意見を聞いている。その後は職員間で話し合いの場を設けている。	家族の窓越し面会時・電話連絡時は、利用者の様子を報告し、家族の意見や要望を聞き取るよう心がけている。聞き取った意見等は運営に反映させている。現在は、コロナ禍にあり利用者の様子を事業所の新聞で詳しく伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談を実施し職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	職員の意見や要望は職員会議・個別面談・日常業務の関わり等で把握し、事業所や法人で検討し、業務見直し等に採り入れている。また、家庭状況等に応じて、職員が継続して働けるよう配慮したり、資格取得の際の支援等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善、働き方改革により快適な職場環境に努めている。給与体制もキャリアパス導入によりやりがいのある環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が外部の研修に参加している。職員会議で研修報告し職員のスキル向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議、グループホーム連絡協議会に参加し他施設職員と交流を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より本人様と面談し入所後には本人様の思いや要望をお聞きし、安心に暮らせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にホームでの様子をお伝えしたり、ご家族の要望をお聞きしサービスを導入している。ご家族様が安心して利用者様を預けられるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の状態やご家族様から話を聞き、必要なサービス等を受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないようお手伝いなどできる事は行っていただいている。共に生活し、支え合える関係性が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や最近の様子で利用者様の様子を報告し体調の変化時には連絡し、ご家族様と情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の面会や外出、外食等が出来るよう支援している。外泊時にはホームでの生活の様子をお伝えしている。	家族等の訪問を受け入れ、利用者と一緒に懇談できるよう配慮していた。現在コロナ禍のため、家族への便りに利用者が直筆でコメントを書いたり、窓越し面会をすることで利用者・家族の不安を解消し関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味や意向、それぞれの方の性格などに配慮し、楽しく安心して生活できる様に工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談等があれば対応している。系列の施設や病院へ入院された方には面会などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者様の思いなどをお聞きしたり、御家族様から情報を得てケア会議等で話し合い、情報を共有している。	日々の関わりの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通の困難な方は、家族の意見や利用者の仕草・行動・表情から利用者本位に検討し意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様や入所前に利用されていた事業所等より、情報の提供をして頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様に無理のない様レクリエーションに参加して頂き、コミュニケーションも図っている。利用者様の状態に応じて掃除や洗濯量、食器拭きのお手伝いもして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度担当者会議を行い、利用者様のケアのあり方や、より良い生活を送れる様意見を出し、ケア会議の際に職員に情報交換し介護計画に取り入れている。ケアプランの説明時にご家族様と意見交換もしている。	利用者の心身状態や利用者・家族の意向を踏まえ全職員で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。また、状態に変化があった場合には家族・職員等で改善案を話し合い計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り用紙を用いて情報を共有し、介護計画へ活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の身体状況に応じてリハビリを取り入れたり、体調の変化時には病院と連携し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品を出し、利用者様と見学に出掛けている。また、近くのスーパーに職員と買い物に出掛けたり、ドライブへ行き季節の移り変わりを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様から了承を得た利用者様は、訪問診療にて診察して頂いている。他病院受診の利用者様はご家族様対応にて受診している。	入居時に確認した希望の医療機関で受診支援を行っている。多くの利用者は法人の訪問診療を受けているが家族が同行して通院する人もいる。受診結果は生活の記録に記入し情報を共有している。家族へは電話等で状況の報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に週に一度来所して頂き、訪問看護記録を用いて利用者様の状態を伝えている。状態に応じて指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時、毎日伺い看護師から状態を聞いていたが、コロナの影響にて一時面会を控えていた。現在は面会に伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と利用者様の意向を伺い、状態変化時に協力施設等や、病院と連携し、意向に沿った支援が出来る様取り組んでいる。	入居時に「重度化対応に関する指針」を家族に説明し事業所が出来るケアの内容や緊急時や重度化した場合の対応についての意向を確認している。重度化した場合は関係者と相談し、意向に沿った治療が受けられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時情報提供書や受診マニュアルを活用し、出来る限りスムーズに対応出来る様にしている。応急手当普及員による講習や、感染委員の嘔吐物処理対応実践も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回取り組んでいる。近所の方に協力して頂き、訓練にも参加して頂いている。消防の方に訓練の様子を見て頂きアドバイスや意見を受け活かしている。	防災計画書を作成し、昼夜の避難訓練を消防や近隣住民の協力を得ながら実施している。また、消防署から防災に関するDVDを借りて勉強会を開催したり、水消火器を借りての訓練も行っている。備蓄は一覧表を作り非常食のメニューを決めて3日分段ボールに入れて保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を理解し、職員間で話し合う場を設け声掛けや支援方法を共有している。トイレ誘導時もプライバシーに配慮した声掛けやケアをしている。また、毎月自己チェックを行い意識を高めている。	事故防止委員会で「自己チェック表」で振り返り、月1回、職員一人ひとりが利用者の尊厳を尊重した支援をしているか確認している。プライバシーに関わるケアについてはお互い声を掛けあって馴れ合い防止に努め、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事以外で何か食べたいものや、食事の好みが合わない方にはご本人様が食べたいものをお聞きし提供している。毎日のお茶の時間や食事の際にはメニューの中から好きなものを選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間など個々によって違っており、その日の状態や体調で食事を摂れない方もいる為その方に合わせたケアをご本人様い無理のないように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のその日に着たい物を選んで頂いている。ご自分でお化粧している方などそれぞれがおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。また、訪問理容は月に2、3ヶ月に一度利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮剥きや盛り付けが得意な方にはその日のメニューによってお手伝いして頂いてる。食後の茶碗拭きやお盆拭きは朝・昼・夕で当番制にしており、毎日利用者様よりお声かけを頂きやりがいを持ってお手伝いして頂いてる。自家菜園で収穫した野菜やご近所様より頂いた野菜をおやつで提供する旬の食材を楽しんで頂いている。	月1回お寿司の日があり、利用者の楽しみになっているがコロナ禍のためテイクアウトを利用している。食事作りは利用者到手伝ってもらい、一緒に作っている。菜園で収穫出来た葱・ミニトマト・枝豆等も食材として活用し、職員も一緒に食事を摂り、会話しながら食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方には栄養補助食品を提供している。また、決まった時間だけでなくご本人様が食べられる時に食べられる物を提供し必要な栄養バランスを確保できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お声掛けをし口腔ケアを行って頂いている。ご本人でできる方にはお願いし、不十分な場合は職員お手伝いさせて頂いている。口臭が強い方には口腔内洗浄剤を使用して頂き対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食後お声掛けし、トイレでの排泄を促している。トイレデータ表を使用し、一人ひとりのトイレ頻度や汚染などを把握し支援している。利用者様によってトイレ誘導の時間や回数が違う為、その方に合った支援を行っている。	個別の排泄記録を活用し一人ひとりの排泄習慣に沿った支援をしている。失禁の多い利用者には筋力アップリハビリやトイレの利用の状況を担当者会議やケア会議で話し合い、情報の共有を図っている。その結果パットのサイズを小さく出来た利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操、歩行練習を行い運動をして頂いている。下剤が合わない方もいる為その方には水分を多めに摂って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望や意思を優先し、ゆっくりと入浴して頂けるよう心がけている。入浴拒否が強い方には無理強せず、他職員に声掛けしてもらったり、時間を置いて声掛けするなど工夫している。	入浴は利用者本位で週2～4回支援している。拒否する利用者には時間や日を変えて支援しているが、カレンダーに入浴予定日を印をつけて、本人が納得して入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて食事間に居室にて休んで頂いたり、レクリエーションやおやつなどは、時間的に余裕を持たせて声掛けし行動に移せるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方された薬の「お薬ファイル」を常備して、誰でも確認できるようになっている。必要に応じて検温や血圧測定を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族からのお話、入所時の資料や職員間の情報を基に、ご本人様の得意だったこと、好きなことを把握する。お手伝いやレクリエーションに活かせるよう声掛けし、生きがいややりがいを感じてもらえるように職員も一緒に取り組み満足感を味わって頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族にも外出支援にご協力頂いているが、ホームでも「ハッピーDAY」という頓党職員と一緒にいきたいところに出掛けたり、欲しいものがあれば買い物に行く機会を持つことができるようにしている。	コロナ禍でも、年1回「ハッピーDAY」を設け利用者の希望に沿った支援をしている。外出の際は必ず職員が同行し、寿司屋・長床でイチョウ見学・道の駅・本屋・日中線の桜見学・恋人坂で写真撮影等、月に1～2組ずつ実現出来ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にご本人様が手元にいくらのお金を所持したいという希望があれば御家族と相談のうえ、あまり多額ではない金額をお財布に入れ、所持して頂き安心してもらえる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月初めに「利用者様の最近の様子」というご自分で書いたメッセージと写真を載せ担当者が近況を書いたものを御家族にお送りしている。電話の訴え時には、御家族の生活時間帯を考慮してかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最も長時間共有する食堂は、午前と午後温度と湿度をチェックし、昼食後には換気を行っている。気温や衛生に注意を払い、又、その季節の花を飾ったり、毎月皆で作ったカレンダーや壁飾りもかけ、季節感を味わって頂いている。	共用空間は空調・加湿・換気管理がされている。大きな窓越しに季節感のある景色が眺められる。職員と利用者で作った手作りのカレンダーやお習字、献立表や当番表が貼られ、利用者がなじみの空間で落ち着いて生活できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では自席の他に、自由にソファもご利用いただけるようにしている。席の配置はお互いに楽しく会話ができるような利用者同士であるよう配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入所時に持参されたお気に入りの品や御家族の写真、プレゼントなど配置良く並べ、家と同じようにくつろげる環境を目指している。	居室にはクローゼットとタンスが作り付けられている。自宅から馴染みの机や椅子・家族写真・位牌や遺影・自作品や本等が持ち込まれている。居室は部屋ごとにデザインが変えてあり利用者は自分の部屋であることを認識できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は、わかりやすい絵やマーク、のれんなどを下げたり、自分の部屋が分からない方には居室ドアに名前を貼ったりご本人の目印となる飾りをつけている。		